



■ テーマ名

ソーシャルワーク実践モデルの開発と普及によるソーシャルワーク実践の標準化と見える化

■ キーワード

実践モデル、ソーシャルワーク、普及

■ 研究の概要

人間は自分の望む生活を営むために日々の生活課題を様々な内的・外的資源を活用して達成している。傷病の発生やその治療は、新たな生活課題を生み出すきっかけとなることが多い。保健・医療・福祉サービスを利用しつつ生活するという事は、新たな生活課題（Life Challenge）に直面しつつそれを達成していくプロセスでもある。医療の場において機能するソーシャルワークは、保健・医療・福祉サービスを利用しつつ人がつつがなく生活できるように支援することを目的とする。

本研究においては、芝野松次郎氏が提唱する MD&D の研究手法で開発した実践モデルの普及を行いつつ、さらに汎用性の高い実践モデルを開発し、ソーシャルワーク実践の質の標準化と実践の見える化を目指している。

ハイリスク新生児への医療ソーシャルワーク実践モデルとして、「援助手続きの枠組み」を開発し、援助を、かかわりの局面としての横軸と 13 の構成要素である縦軸とで表現することで可視化できるようにした。2010 年から現在まで年に 1 回、周産期・小児医療に携わっているソーシャルワーカーに実践モデルについての研修を行っている。同時に、ICT（情報通信技術）を活用して「ハイリスク児医療ソーシャルワークナビシステムスキルアップトレーニング」を開発した。今後は対象や分野を問わずに活用できる汎用性の高いソーシャルワークの実践モデルの開発を進めると同時に、限定された利用者や機関の機能に活用可能な実践モデルも合わせて開発し、実践モデルの普及を行い、ソーシャルワーク実践の質の標準化と見える化をさらに進める予定である。

■ 他の研究／技術との相違点

実践モデルの活用で、ソーシャルワーク実践が援助の構成要素ごとに言語化でき可視化でき実践上の課題が明らかになると同時に、実践の内容を他職種や同職種に伝達しやすくなり実践の質を確実に高めることができる。ICT を活用してデータの蓄積を可能とし複数のユーザーとのコミュニケーションが可能となる。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

援助の構成要素やかかわりの局面を、対象者ごと（例としてハイリスク新生児や移植患者など）に集約し、マニュアルの開発を行い、スキルアップの手法を開発しソーシャルワーカーの効果的な援助の標準化を図る。そしてソーシャルワークの専門的な技能の可視化を可能とし、伝達可能なツールとして実用化していく。他方で、ジェネラリスト・ソーシャルワークにも活用できるように、分野や利用者を限定しない汎用性の高い実践モデルにすべく改良を行っていく。

■ 関連業績（特許・文献）

宮崎清恵「ハイリスク児医療ソーシャルワークナビシステムスキルアップトレーニング」株式会社ナナイロ 2016 年 3 月

宮崎清恵「周産期医療の場から始まる継続したソーシャルワーカー 地域と医療機関をつなぐ社会福祉士の役割」社会福祉研究第 125 号 2016 年 4 月

宮崎清恵「第 4 章ダイレクトソーシャルワーク実践におけるアセスメント」公益社団法人日本医療社会福祉協会・公益社団法人日本社会福祉士会 編『保健医療ソーシャルワーカーアドバンス実践のために』2017. 中央法規

宮崎清恵「第 16 章医療ソーシャルワーク実践モデルの普及と誂えを目指して」芝野松次郎編著『ソーシャルワーク研究におけるデザイン・アンド・ディベロップメントの軌跡』2018. 関西学院大学出版会

■ 研究者から一言

生活課題に取り組む人間への生活支援を行う専門的な社会福祉実践者（ソーシャルワーカー）の資質向上に役立つための研究をさらに進めていくと同時に多くの研修やスーパービジョンを行っていく予定である。